



自己実現への道

第80回 ― 第5章 「常に進歩をめざすところに生きがいがある」(その9)―

★リスクを恐れずアイデアの種をまく

牧場に春がくると、彼らは種をまく。農夫は豊作を願いながら一粒一粒の種をまく。

今日では農業人口が減っていて、たいていの人々は他の産業の仕事に従事している。しかし、アイデアを種に見立てれば、これらの人々は「アイデアをまく農夫」だということができる。

愚かな者でも1個のりんごの中の種を数えることができる。

しかし、一粒の種の中のりんごの数を数えることはできない。

あるアイデアを取りあげたら、生まれたての乳児のように世話をしてやろう。

食べ物を与えて育み、かばい、着物を着せてやろう。

なぜなら、そのアイデアから出てくる芽には、人類の幸福に寄与し、神の栄光を表すプロジェクトに成長する無限の可能性が秘められているからである。

そのアイデアが期待通りに実現しないかもしれないというリスクはある。しかし、リスクを恐れず、ためらわずに人生の旅路を営々と歩むものは、疑心や弱気に降伏する連中をはるかに後に引き離して、収穫のときを目指して前進する。

着手しなければ、何も起こらない。

いくらよいアイデアでも、これを実行しなければ、もちろん収穫は得られない。

実行には勇気や忍耐が必要である。芽が出て実るまでに、嵐に遭い、雨に打たれ、吹雪に見舞われるように、私たちは様々な困難に会うが、あくまで、がんばることである。

★若い芽に水をやる先行投資を怠るな

芽を出した種からは短く柔らかな根が伸びるが、水が不足するとたちまち乾いて死んでしまう。水をやるのは事前投資である。

真剣に生きる者は、結果が確認される以前から、努力を傾けることを求められる。

実はこれが生きがいのある人生を創生してくれるのだ。

努力のみでは成功できない。熱意と信念がなければダメである。しかし、努力なくして成功はできない。

目標到達まで、決して油断するな。

目前まで来ても、最後の注意と努力を怠るな。

〈MIKO〉

☞ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より